

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ③④  
『しょうがっこうがだいすき』（秋元うい・えがしらみちこ・学研）

朝のテレビ番組で取り上げられた『しょうがっこうがだいすき』という本を読みました。愛知県の小学二年生秋元ういさんが書いた本で、小学生になるまでにやることと小学生になってからやるといいことが書かれています。小学校二年生の著者が、小学校に通う先輩として後輩たちにメッセージを書いてくれました。「学校ではさげばないようにしよう」「何回もしつもんするのははずかしくなっちゃう」「いないと思われぬように」など 16 のアドバイスが挙げられています。不安いっぱい小学校入学をひかえ、充実した学校生活を送る秘訣が書かれています。この本と同じような本として『小学校へ行こう』（斉藤洋・田中六大）があります。「小学校ってどんなところ？」「幼稚園とどこが違うの？」「授業ってむずかしい？」「給食はおいしいの」など小学校の入門書となっています。

十一月に津島市の小・中学生に講演をしていただいた奥山景布子先生の『義時運命の輪』（集英社）を読みました。2022 年の大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』と同じ北条義時を主人公にした歴史小説です。今までどちらかというあまり好意的に描かれていなかった、二代目執権北条義時の人生です。彼は、姉北条政子や義兄源頼朝のような天才肌の個性あふれる人ではなく、また三代執権北条泰時のような人間味あふれる常識人でもありません。父時政にまでないがしろにされ続けた義時が、権力者になるなど到底考えられませんでした。ところが相つぐ権力者たちの死、仲間の叛乱・裏切り、権謀術策により頂点にまでのぼりつめていきます。政子や他の御家人たちと比べ、義時がなぜ勝ち残っていったかを、静謐にかつ熱く描いた作品となっています。

先日、私の高校時代の恩師にお会いし、お話をうかがいました。地学、特に昆虫考古学の研究をし、大学生にも講義をしてみえました。すでに七十歳をこえているはずなのに、会話を聞いていて若々しさに驚かされました。秘訣は読書量。あらためて読書の重要さを教えられました。頭の柔らかさ、若々しさのためにも、読んでは考え、考えては読む習慣を大切にしていきたいと思いました。

令和 5 年 1 月 5 日  
津島市教育委員会  
教育長 浅井厚視